

功 績 概 要

学 校 教 育 功 勞

○中世古 和久（なかせこ かずひさ）（三重県立津工業高等学校教諭）

昭和 62 年 4 月から永年にわたり、県立高等学校教諭として本県の工業教育の発展に大きく貢献した。

生徒によりよい学習環境を提供するため、自動制御の実習装置を自作して実習を行うとともに、ロボット大会等に参加する生徒に製作指導を行うなど、生徒の夢をかなえてきた。

実用性があるものを作ることで、本物の技術を身につけてほしいという思いから、平成 17 年 4 月から定年退職まで勤務した津工業高等学校では、災害時に役立つ防災ロボット作りの指導に尽力し、同校を平成 21 年に日本教育公務員弘済会奨励賞、平成 22 年にぼうさい甲子園奨励賞の受賞に導いた。

その取り組みは高い評価を受け、東京都にある工業教育会館に作品が展示されるとともに、全国の工業高等学校の関係者に先進的な事例として広く知られるところとなった。

また、被災地で使用される機械に電力を供給し、無線 LAN で遠隔操作・制御のできる MPG（マルチパーパスジェネレーター）と名付けた電力供給車の製作指導も手がけ、その活動が東京消防庁の高校生対象の防災教育の啓発活動に取り上げられるとともに、高い評価を得た。

学 術 文 化 功 勞

○稲本 紀昭（いなもと のりあき）（元津市文化財保護審議会会長）

平成 18 年 11 月から同 26 年 11 月まで、津市文化財保護審議会委員、平成 22 年 11 月から同 26 年 11 月まで同審議会会長を務め、会の総括という重責を担った。

平成 10 年 9 月から同 24 年 9 月までの永年にわたり、三重県文化財保護審議会委員を務めた。その間、高度な専門的知識と豊富な経験により、県内文化財の適切な保護を行った。県指定文化財の審議にあたっては、指定候補文化財の価値を的確に判断し、県教育委員会の諮問に応じた。

日本中世史の研究者として、県内に所在する多くの古文書を調査し、その学術的意義を発信してきた。佐藤家文書（津市）の調査は、後に国重要文化財へと指定される基礎となった。

多気北畠氏城館跡（津市）では、発掘調査成果への的確な指導・助言を行い、国指定史跡へと導いた。

三重県に縁の深い戦国大名である北畠氏・九鬼氏の研究を推進し、その成果は学術的に高く評価されている。研究成果の一部は、同氏が三重県史編さん専門委員として携わった「三重県史資料編中世 1・2・3」等を通じ発信され、全国の文化財保護の基礎資料として活用され続けている。

学 校 保 健 功 労

○山根 隆（やまね たかし）（学校歯科医）

昭和 49 年 4 月から平成 18 年 3 月まで三重県立菰野高等学校、昭和 58 年 4 月から現在に至るまで菰野町立菰野中学校、昭和 60 年 4 月から現在に至るまで菰野町立鶉川原小学校の学校歯科医として永年にわたり、歯科医学の進歩とともに年々変化していく学校歯科保健活動に従事し、8020 達成を目指した生涯歯科保健に最も重要となる時期の児童生徒への指導に尽力した。

家庭、地域における歯科保健活動の大切さを訴え、う蝕の予防と口腔衛生の向上のための活動及び地域の歯科保健衛生の向上と普及に貢献し、高い見識と徳望を持ち、学校歯科医として信頼と敬愛を受けている。

社団法人四日市歯科医師会会長、監事（平成 25 年 4 月 1 日に一般社団法人に移行）、公益社団法人三重県歯科医師会監事に就任し、地区学校歯科医に対しての指導等にも尽力した。

歯の衛生週間には、「よい歯の児童生徒」、「親と子のよい歯のコンクール」、「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」を行い、歯科衛生に対する認識を深める活動に尽力した。